

暑寒別岳遭難(2010年1月)

厳冬期に25歳男性の単独登山。風雪のため道に迷い、救助を携帯電話で要請するも悪天候のため救助が難航。携帯電話も不通になり、遭難4日後、救助隊は捜索を断念した。



解説

標高1,250m付近で風雪のため道に迷い、警察に救助を要請。警察や自衛隊などの救助隊が26日から捜索を続けたが、悪天候のため難航。27日、男性は山頂方向へ移動中に約50m滑落し、この時に装備を紛失したようだ。また、午後からは携帯電話が不通になった。29日午後、救助隊は1,100m付近まで進んだが、悪天候のためにそれ以上の捜索を断念した。

厳冬期の単独行は体力、技術、知識、冷静等を必要とする。悪天候では救助も難航し、ヘリも飛ばすことができない。また、装備を失った場合、厳冬期ではどうすることもできない。

この事例を通じ、雪山登山についてももう一度、安全を確かめて行動したい。